



# 元気っ子

No.295 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

先月の元気っ子の最後に VUCA の時代という言葉を使いました。最近、新聞等では時々見かける言葉かと思いますが、これは Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字を並べた造語です。つまり様々なことが「予測困難な」時代という意味なのですが、時代の流れと共にテクノロジーが進化し、世の中の仕組みや既存のルールをめまぐるしく変化させました。それに加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、VUCA 時代の突入に拍車をかけたと言えるかと思います。

そして、この新型コロナウイルス感染症の世界的流行は様々なことを浮き彫りにしました。例えば、この世界的流行が始まった頃、日本同様、世界の国々で小中学校等が休校になりました。日本ではこの休校により、履修科目の遅れを取り戻すことがとても大変でした。しかし、日本以外の多くの国々においては、休校に入ると同時に授業の全てをオンラインで実施したため、休校明けでも混乱は発生しませんでした。これにより、日本はこれまでテクノロジーの分野で世界を牽引していたと信じていたものが、ある意味 IT 後進国であることが露呈したのです。しかし、こうしたことが明るみに出ても、人々は過去的前提や常識に縛られ、オンライン授業の是非について解決の糸口がなかなかつかめない状況に陥りました。この議論の結果、前提や常識にとらわれていては、子どもの学びを保障できなくなることに多くの人が気付き始め、「あるべき姿に近づけるためにはどうしたら良いか」という方向にマインドセットが変わっていったのだと思います。

この VUCA 時代においては、これまでの常識に対しても、新たな観点から判断を強いられる場面がたくさん出てくると思います。均一化されない多様な社会の中で、唯一絶対の答えは存在しない気がします。なぜなら、置かれた状況が違う全ての人にとって 100%正解の解決法は存在し得ないからです。重要なのは、筋の良い問いを立て、その問いに対して、100%ではないけれど多くの人が「納得」できる最適解を導き出し、実行していくことだと思います。

VUCA 時代を生きていくための教育を考えたとき、アフターコロナの世界もまた、予測困難なことが続くと思います。私達大人が生きてきた時代とは、色々な常識や価値が大きく変化していく時代に突入しています。南海トラフの大地震、原油価格の高騰など、戦争による経済への影響、そして今回の新型コロナウイルス感染症のような未知の疫病など、本当に見通しが不透明な時代です。この流れは加速することはあっても、元に戻ることはないでしょう。

子どもたちにとって必要なのは、この予測困難な社会の中で社会をよりよくしていくための経験とスキルを身に付けていくことです。だからこそ、私達大人は保育・教育を通じて、全ての子どもたちの可能性を最大限度まで引き出し、育てていくことを意識していくことが大切なのではないでしょうか。

